

2003年6月11日

## シマノと共同で釣用リールの糸巻き制御 CPU を開発

宇部興産機械株式会社(山口県宇部市大字小串字沖ノ山 1980、若林敏夫社長)は、大手釣り具メーカーの株式会社シマノ(大阪府堺市老松町3-77、島野容三社長)の新製品である釣用リール「カルカッタコンクエスト DC」の糸巻き制御 CPU を共同開発した。この釣用リールは、ルアー(疑似餌)を投げる際にしばしば発生する糸の絡みを解消するために、糸巻き部分のブレーキ機能をコンピュータに使う CPU(中央演算処理装置)によって微妙にコントロールし、糸を送り出すのに最適な回転にするもので、この CPU のプログラムに、宇部興産機械の技術開発センターが開発したダイカストマシンの射出制御部(SDDV)のプログラムが応用されている。宇部興産機械の SDDV は、「スライディングモード制御という新しい制御技術により、ダイカストマシンの射出速度を高い精度で制御できる」、という特徴を有しており、同技術が、ライン(釣り糸)の張力に応じて、リールの回転を微妙に自動調節するプログラムへ応用されている。宇部興産機械とシマノは、2001年より2年をかけてこのプログラムを開発した。従来のリールは、磁石の力や遠心力を利用して回転を制御する仕組みで、ルアーを投げる瞬間の初速まで抑えてしまうという欠点があった。新製品では、飛距離は従来品より5~10メートルほど延びるといふ。新製品は、シマノより8月上旬に上市される。

